第１講　幼児教育に関する社会的背景

【学習到達目標】

・幼児教育に関する社会的な課題について説明できる．
・幼稚園教員に求められる専門性について具体例を示して説明できる．
・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について説明できる．

１．幼児教育に関する社会的な課題

子どもは幼児期のうちに，社会性や表現力，人間関係など，社会でよりよく生きるために必要な力の基礎を学ぶ．生活や遊びのあらゆる体験をとおして学びを得て，人間的な成長を目指すのが幼児教育である．ここでは，幼児教育に関する社会的背景について考える．

現状の文部科学省の目指す幼児教育は，これまでのメソッドを引き継ぎ，集団生活の中で健やかな心身と創造性，道徳性を培うことがテーマになっている．しかし，近年はさまざまな課題も顕在化してきた．特に，子どもたちの意欲関心の低下や，集中力・自制心の低下，運動能力の低下などが指摘されている．

これらは社会の変化によって幼児をとりまく環境が変化したことが原因とみられている．

子どもが生活する環境は，数十年前とは大きく変わっている．まず，少子化と核家族化の進行によって，近所の子どもたちが集まって遊ぶ機会が減った．インターネットやゲームなど，屋内かつ一人で完結する遊びが増えたのもその要因である．そもそも都市化が進んだことで公園や広場など安全な遊び場が少なくなっているという面もある．また，地域のつながりが希薄になり，近所の大人がよその子どもに対して話しかけることも，現代ではまれになった．

地域社会だけでなく，家庭という小さな単位でも子どもの教育環境は変化している．まず，女性の社会進出で共働き家庭が増えた．さらに労働時間も増加傾向にあり，親子の時間が十分に確保できなくなっている．

また，先述のとおり，地域との交流が希薄化したことで，保護者にとって子どもの預け先や悩みの相談相手がいないという問題もある．

そのため，これまでは自然と身についていた運動能力や好奇心，人間関係を築く力が身につきにくくなっていると言われている．

【研究】幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究

本来は，家庭・地域・幼稚園等の教育施設が連携し，一体となって幼児を育てていくことが，幼児教育であった．しかし，核家族や単身親家庭も増え，信頼で結びついた近所付き合いも減った昨今，それぞれが独立しているような状態である．

課題解決のためには家庭と地域の教育力の向上と３者の連携が不可欠である．文部科学省では，今後家庭と地域社会の教育力向上を助ける役割を，幼稚園が担っていく必要があるとの方針を示している．

子どもの豊かな人間性を育てるためには，家庭と地域，幼稚園という３つの教育現場がそれぞれ自分の役割を再度確認し，協力し合う体制を築くことが大切である．

「幼稚園教員の資質向上について－自ら学ぶ幼稚園教員のために」（報告）：平成１４年６月２４日：幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告

２．幼稚園教員の資質向上

幼稚園教員の資質向上の意義について，平成 14 年 6 月 24 日に報告された「幼稚園教員の資質向上について－自ら学ぶ幼稚園教員のためにー」（報告）によると，次のように述べられている．

幼児期は，人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり，他者の存在を意識し始め，人とのつながりや周りへの興味や関心が広がる時期である．幼児は，初めての集団生活である幼稚園において，主体的な活動としての遊びを通じ，他者との違いに気付き，ともに活動する喜びを得，自らの好奇心を高めるなど，生きる力の基礎を得ることができるようになるので，遊びを通した総合的な指導を行うことが重要である．

幼稚園教員は，幼児を内面から理解した上で，幼児の主体的な活動が確保されるように物的・空間的環境を構成するとともに，また，幼児の活動を豊かにするための役割が期待されており，幼児教育における中核的な役割を担っている．このため，幼稚園教員に優れた人材を得，また，その資質向上を図ることは極めて重要である．この調査研究においては，幼稚園教員の資質を，幼児教育に対する情熱と使命感に立脚した，知識や技術，能力の総体ととらえて，その向上のための課題と展望，今後の方向性及び方策を検討している．

このような幼児教育及び教員の重要性を踏まえると，幼稚園教員及び教員を目指す者は，幼稚園教員として求められる資質を，養成課程や現職研修においてはもちろん，通常の保育を含めた様々な機会を通じて，自ら向上させていくことが重要である．

さらに，幼稚園教員に求められる資質には，いわゆる「不易」と「流行」の部分があると考えられる．まず，いつの時代にも求められる，幼児を理解し，総合

的な指導をするために必要な資質は「不易」として位置付けられ，常に原点に立って向上させていくべきものである．一方，現在，幼稚園を取り巻く環境が大きく変化する中，新たに幼稚園教員に求められるようになってきた資質は，「流行」として位置付けることができ，幅広い生活体験や社会体験を背景とした柔軟性やたくましさを基礎として向上させていくことが重要である．

教員として求められる資質は多岐にわたり，ライフステージに応じて，不断に向上に努めることが必要である．また，現職教員に対する研修だけでなく，人事や処遇等も含めて総合的に条件を整備していくことが，教員の総合的な資質の向上に必要である．

また，幼稚園が，自己点検・自己評価を行うことに努め，それらの結果や園の運営状況などに関する情報を園として積極的に公表していくことが求められているが，幼稚園教員の資質向上に関する項目についても，その対象とすることは，保護者や地域の多様なニーズに応え，幼稚園教育の水準を維持向上していくことに資する．

これらの観点を踏まえて，幼稚園教員自らが資質向上に対して取り組むことが重要であり，また，多くの関係者や関係団体がその取組を支援していくこと及びそのための環境の整備を国や地方公共団体が行うことが重要である．

３．幼稚園教員に求められる専門性

幼稚園教員は，幼児一人一人の内面を理解し，信頼関係を築きつつ，集団生活の中で発達に必要な経験を幼児自らが獲得していくことができるように環境を構成し，活動の場面に応じた適切な指導を行う力をもつことが重要である．また，家庭との連携を十分に図り，家庭と地域社会との連続性を保ちつつ教育を展開する力なども求められている．その際，幼稚園教育が，小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し，幼児期にふさわしい生活を通して，創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことに留意する必要がある．言うまでもなく，これらの教育活動に携わるにあたっては，豊かな人間性を基礎に，使命感や情熱が求められる．

以下，幼稚園教員に求められる専門性のうち重要と考えられるものを示し，その資質を向上させるための手がかりとする．

そこで前述の報告書によると幼稚園教員に求められる専門性について，次のように８つの内容を提言している．

（１）幼児理解・総合的に指導する力

幼児は，自発的な活動である遊びを通じて，心身全体を働かせ，様々なことを経験しつつ，理解力，言語表現能力，運動能力，思考力，社会性，道徳性などの多様な能力や性質について，相互に関連させながら総合的な発達を遂げるものである．このような幼児の発達段階や発達過程を，その内面から理解し，生活の中で幼児が示す発見の喜びや達成感と共感をもって受け入れる，といった幼児理解が，基本として重要である．

そして，幼児の総合的な発達を促すため，主体性を引き出しつつ，遊びを通じて総合的に指導する力が，専門性として求められており，幼児期の特性に応じて指導する力として重要である．

（２）具体的に保育を構想する力，実践力

幼児理解に基づき総合的に指導する力を発揮するためには，一人一人の発達段階と個別の状況に応じて，計画的に，多様な生活体験，自然体験の機会や異年齢交流，交流保育など，具体的に保育を構想し，実践する力が必要である．これは，教員自身の豊かな体験を背景として展開されることが多く，教員及び教員志望者は，生活体験や自然体験，社会奉仕体験など，自らの豊かな体験を積極的に積むことが望まれる．

（３）得意分野の育成，教員集団の一員としての協働性

幼稚園教員は，（１），（２）で述べたように具体的に保育を想定し総合的な指導を展開していくにあたり，それぞれの得意分野を有していることが求められる．それは例えば，体を動かすことを通じての指導であったり，あるいは読み聞かせなどの言語・表現活動の分野，障害のある幼児の指導であったりするかもしれない．この得意分野とは，知識や技術に立脚した活動や内容にとどまらず，幼児の興味を引き出し，幼児の充実感を味わうことができるような，幼児が豊かな活動につながるものである．

そして，個別の得意分野を通じて幼児一人一人が豊かな感性をもっていることを認識する機会となるので，教員にとって得意分野の育成は，幼児を理解し，総合的に指導する力を高めることにも通じると考えられる．

個性あふれる教員同士がコミュニケーションを図りつつ，教員集団の一員として協働関係を構築して，園全体として教育活動を展開していくことが求められている．特にチーム保育においては，複数の教員が持ち味を活かしながら，幼児一人一人に対してより柔軟に対応することができる点に意義があり，得意分野と協働性の発揮が期待されている．

（４）特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力

三歳児や満三歳に達し幼稚園に入園した時点で幼児は，家庭での経験の差や個人差が大きい時期であり，初めての集団生活の場において，発達の側面から一人一人への対応がとりわけ必要となる．障害のある幼児については，障害の種類や程度等の対応に関して必要な専門的知識や技能を習得する必要がある．外国籍の幼児については，文化や言葉の相違を理解した上で，子どもとその保護者とともに生活していくという姿勢が必要である．

（５）小学校や保育所との連携を推進する力

幼稚園と小学校が連携し，幼児期から児童期への移行を円滑にし，一貫した流れを作るため，共通の子ども理解をもち，教員間，幼児・児童間，保護者間の交流を進めるための実行力や企画力などが教員に求められる．また，幼稚園と保育所は，連携を進めつつそれぞれの目的や役割を果たしてきており，幼稚園と保育所の相互交流や幼稚園教諭と保育士の合同研修などを踏まえた能力の発揮が求められる．

（６）保護者及び地域社会との関係を構築する力

幼稚園は，通常の教育活動や園児の保護者への対応やＰＴＡ活動の場だけではなく，地域の幼児教育のセンターとしての機能を発揮し，未就園児の親子登園，子育て相談，園開放，子育て情報の提供など子育て支援活動を展開することが求められている．このような局面で，園長や教員は，カウンセリングマインドをもち，保護者たちの悩みを受け止め，円滑にコミュニケーションをとることが求められている．

また，地域に開かれた幼稚園として，保護者や地域の様々な情報をとらえ，これを教育活動に活かしたり，園運営に反映させたりするなどして，幼稚園・家庭・地域社会の関係を深めていくことが求められている．このような場合，園長等は，情報収集及び発信能力及び対外的交渉力を発揮し，幼稚園が地域に貢献するとともに地域の様々な力を幼稚園に導入できるような関係を構築することが求められている．

（７）園長など管理職が発揮するリーダーシップ

園長は，教職員組織のリーダーであり，教職員が互いに尊重しつつ協力的な組織を構築し，各教員が資質の向上に取り組むことを支援する責任者であり，アドバイザーでもある．危機管理についても責任者として日頃から備えを怠らないようにすべきである．このように園長の責任は大きく，自らのリーダーシップを十分に発揮できるよう，自己管理と自らの資質向上に努めることが求められている．

（８）人権に対する理解

幼児が集団生活を初めて経験する場としての幼稚園において，教員は，いかなる差別や偏見もゆるさないという，人権についての正確な理解に基づき，幼児が，互いを尊重し，社会の基本的なルールの存在に気付き，それに従った行動ができるような素地を身に付けるように指導する力が求められている．今後，国際化や高齢化が進み，男女共同参画社会など，多様な構成員から成る社会がますます形成されていくと考えられるが，これから成長していく幼児にとっても重要な観点である．

ここで，これらの専門性を高めるための手立ての一つとして，「二種免許状を有する現職教員が一種免許状を取得するため，また，幼稚園教員や経験者が小学校教員等の免許状を併せて取得するための，文部科学大臣が認定する免許法認定講習等を養成機関が開催し，養成機関の現職教員を研修する機能を充実させることは，養成機関の専門性を発揮する機会であり，また，現職教員が抱える実践上の課題を養成機関が直接に把握できる機会となる．さらに，現職教員が専修免許状を取得するために，大学院修学制度を活用して，大学院生として授業やゼミナールなどに参加することは，現職教員にとっては新しい理論や研究を学ぶ機会となり，学生にとっては現職教員の経験から実践について学ぶ機会となることが期待される．」と述べている．

現状で，幼稚園教諭の免許状保有状況については，68%が二種免許状であり，小学校が 14%と比較しても他学校種に比べて多い．

４．教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標

2017 年 4 月施行の教育公務員特例法（教特法）に基づき，各任命権者には教員育成指標とそれに基づく研修計画の策定が義務付けられた（第 22 条の 3，第 22 条の 4）．法令・通知等から描出される理念型の教員育成指標は，教員キャリアの多様性を前提としつつ，教員キャリアにおいて身につけるべき資質・能力を明確化することで，全教員のキャリアに応じた基礎的資質・能力の確保（標準化）と，各教員の多様な資質・能力の伸長（卓越化）とを図るものである．また，その際には「教員の職責，経験及び適性」に対応した指標とすることが義務付けられている（第 22 条の 3）．

併せて国が策定した「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」（以下，指針）では，教員育成指標に盛り込むべき要素として①学校種及び教員の職種，②職責，経験及び適性に応じた成長段階（以下，キャリアステージ），③資質・能力の内容（7 項目）が明示されている．

このことから，教員育成指標とは任命権者が②と③を組み合わせながら，教員の標準化と卓越化を図るための指標とみることができる．標準化と卓越化という異なるベクトルを内包することとなる要因には，教員がしばしばアンビバレントな存在として観念されることが挙げられる．一つは「不適格教員」や「指導力不足教員」言説に代表される教育現場からの退出を求められる教員像である．もう一つは省察的実践家として自身の資質・能力の向上を追究する教育専門職像である．前者は最低限の資質・能力の確保という文脈で標準化が要請される主体であり，後者は卓越化の主体となる．任命権者による教員政策はこのアンビバレントな教員への評価を念頭に置きつつ，質保証と質向上を同時に目指さなければならない．

公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針

岐阜県でも平成 28 年 11 月に「教育公務員特例法等の一部を改正する法律」が公布されたことに伴い，平成 29 年度には，教員養成大学関係者，各校種の校長代表，保護者等で構成する協議会を設置し，校長及び教員の資質の向上に関する指標を協議・策定するとともに，指標に基づいて平成 30 年度の教員研修計画の策定を進めている．

・こうした国の動きに先行して，岐阜県教育委員会では，平成 28 年度に「キャリアステージ到達指標策定検討委員会」を組織し，各校種ごとに「岐阜県『教員のキャリアステージ』における資質の向上に関する指標」の原案を作成した．
・平成２９年度の協議会では，２８年度作成の指標を原案として協議を行い，公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標及び教員研修計画を策定した．
・教員のキャリアステージは，「基礎形成期」「資質向上期」「資質充実期」「資質貢献期」の４期で設定されている．年齢の違いはあるものの，この４期のステージを経て教員が成長していくものと考えている．
・「資質貢献期」は，管理職として身に付けるべき資質も含めている．
・「スタートライン」は教員養成終了の段階までに身に付けるべき資質である．

岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【幼稚園等】

幼稚園等においては，指標を①保育②教育環境の創造③経営・分掌に分け，それぞれの指標を次のように分けて提示している．

①保育・・・保育構想，保育実践，評価改善
②教育環境の創造・・・幼児理解，生活の展開，発達の課題
③経営・分掌・・・学級・学年・園経営，連携・協働，危機管理

これらの指標は，幼稚園教諭が，「自分のキャリアステージを確認する際に」

「キャリアステージにおける目標を設定する際に」「資質向上のための研修を選ぶ際に」「今後目指すべき資質を明らかにする際に」少しでも役立てることを意図して策定された．したがって，大学における教員の研修についてもこれらの指標(資質・能力)を踏まえたカリキュラムを作成することが重要である．

５．幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方

平成 22 年 11 月 11 日 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議にて，「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」が提出された．

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」

ここでは，子どもの発達や学びの連続性を保障するため，幼児期の教育と児童期の教育が円滑に接続し，体系的な教育が組織的に行われることが重要であるとの認識されている．その一方，地方公共団体や各学校・施設（幼稚園・保育所・認定こども園と小学校）の幼小接続のための取組は十分実施されているとはいえない状況であるとの課題も提言されている．その理由としては，「接続関係を具体的にすることが難しい」，「幼小の教育の違いについて十分理解・意識していない」，「接続した教育課程の編成に積極的ではない」があげられている．

特に，幼児期と児童期における教育課程の構成原理やそれに伴う指導方法等には，発達の段階に配慮した違いが存在するものの，こうした違いの理解・実践は，あくまで両者の目的・目標が連続性・一貫性をもって構成されているとの前提に立って行われなければならない．と強調している．

また，幼児期から児童期にかけての時期は，学びの芽生えの時期（幼児期）と自覚的な学びの時期（児童期）という発達の段階の違いからくる，遊びの中での学びと各教科等の授業を通した学習という違いがあるものの，「人とのかかわり」や「ものとのかかわり」という直接的・具体的な対象とのかかわりで幼児期と児童期の教育活動のつながりを見通して，幼児期から児童期の教育への円滑な移行を図ることが必要と述べている．そのために，各学校・施設において幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿を次のようにイメージしている．

幼稚園教育要領や保育所保育指針では，小学校学習指導要領と異なり，「～を味わう」，「～を感じる」などのように，いわばその後の教育の方向付けを重視した目標で構成されている．これは，先に述べたように，発達の段階に配慮した違いである．しかし，このような違いがあることから，児童期については小学校学習指導要領において育つべき具体的な姿が示されているのに対し，幼児期については幼稚園教育要領や保育所保育指針からは具体的な姿が見えにくいという指摘がある．

幼児期の発達の段階を踏まえれば，幼児期の教育において，学年ごとに到達すべき目標を一律に設定することは適切とはいえないが，各幼稚園，保育所，認定こども園においては，幼児の発達や学びの個人差に留意しつつ，幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿を具体的にイメージして，日々の教育を行っていく必要がある．また，各小学校においては，各幼稚園，保育所，認定こども園と情報を共有し，幼児期の終わりの姿を理解した上で，幼小接続の具体の取組を進めていくことが求められる．

各幼稚園，保育所，認定こども園においては，以下の例を参考にしながら，幼児の発達等の状況を踏まえて，幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿をイメージしつつ，豊かな教育活動が展開されるよう工夫してほしい．

このように，幼小連携の接続期の学びを進めていくためには，「幼稚園と小学校の教育課程の接続関係がわからない」，や「幼稚園教育と小学校教育の違いが十分理解されていない」という課題も明らかになっている．

６．幼児教育コーディネータの必要性

これらの幼児教育の社会的な課題を解決するためのキーパーソンとして，それぞれの園や教育委員会などに「幼児教育コーディネータ」を配置し，これらの社会的課題の解決し，幼児期から児童期の発達を見通しつつ，５歳児のカリキュラムとスタートカリキュラムを一体的に捉え，地域の幼児教育と小学校教育（低学年）の関係者が連携して，カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進する体制を構築することが重要になる．

また，接続期に保育者が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を見える化し，家庭や地域にも普及し，幼児期・接続期の教育の質保障のための枠組みを構築し，データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進する必要がある．

課　題

1．幼稚園教員の資質向上についてその方策について説明しなさい.

2．幼稚園教員に求められる専門性について，具体例を挙げて説明しなさい.

3．それぞれ地域の教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標を説明しなさい.

4．幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方の課題について具体例を挙げて説明するとともに，その解決方法を示しなさい.